

《第96号》***開架にない本***

図書館には、利用者が立ち入りできない場所で保管される「閉架資料」があります。閲覧制限があり日常的にあまり目にする機会のないこの「開架にない本」についてご紹介します。

1.和漢古書

医専時代の収集資料は歴史的な価値が高く、劣化による損失を防ぐため温度や湿度管理に注意が必要です。そのため、内丸図書館の館長室および1階書庫で保管しています。和漢古書は、120周年記念事業を機に「巖手医学文庫※」と名付けられ、矢巾図書館内の特別展示コーナーで定期的に展示しています。矢巾図書館へお立ちよりの際はぜひご覧ください。

※メルマガ第61号「岩手医科大学和漢古書」で紹介

2.学内の業績集・発行物

講座の業績集や学内発行物は紛失や破損を避けるため、内丸図書館3階廊下にある鍵付きキャビネットに保管しています。各講座の時代の節目に作成された記録であり、本学の歴史を知る上で貴重な資料と言えます。

3.貴重書など形状や取扱いに注意が必要なもの

取扱いに注意を要する資料や、大きさや形状によっては閉架とする場合があります。たとえば『日本医学の夜明け』（国公立所蔵史料刊行会編、1978年）は、「解体新書」や「蘭学事始」等のほか江戸時代の手術道具を高さ50cmほどの木箱に収め、日本の医学史を実物で見ることができる資料です。こちらも内丸図書館3階廊下で保管しています。

そのほか、激しい経年劣化や破損により利用者への提供が困難と判断した資料は状態悪化を避けるために、名簿などは個人情報保護のために閉架とします。

なお、閉架資料イコール利用不可ではありません。館内での閲覧に限り利用できるものもありますので、お気軽に図書館カウンターへお申し出ください。

図書館トリビア

内丸図書館のR階書庫は、旧版や古い年代の図書およそ2万5千冊が並ぶ開架スペースで、開学以来の長きにわたって収集してきた学術専門書の宝庫です。書架をブラウジングしてみると、たとえばWC分類(感染症)では「アジアかぜ流行史(1961年)」「宮城県疫癘志：藩政時代篇(1963年)」といった書名が目に入り各時代に注目されたテーマを伺い知れて、興味が尽きません。

R階書庫は閉架スペースの印象を持たれているかもしれませんが、自由に出入り・閲覧ができますので、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。宝の山から新たな研究テーマやインスピレーションを得られるかも知れません。

メールマガジンに関するご意見・ご質問は、図書館 tosho@j.iwate-med.ac.jp まで

<編集・発行> 岩手医科大学附属図書館